

2023年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年4月13日

上場会社名 ニッケ(日本毛織株式会社) 上場取引所 東
 コード番号 3201 URL https://www.nikke.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長(氏名) 長岡 豊
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 経営戦略センター経室長(氏名) 藤原 浩司 TEL 06-6205-6635
 四半期報告書提出予定日 2023年4月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年11月期第1四半期の連結業績(2022年12月1日~2023年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第1四半期	25,520	△0.3	1,908	△19.0	2,031	△23.3	1,454	△19.7
2022年11月期第1四半期	25,598	7.7	2,356	14.3	2,648	52.3	1,809	79.3

(注) 包括利益 2023年11月期第1四半期 2,514百万円(16.5%) 2022年11月期第1四半期 2,159百万円(12.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第1四半期	20.57	—
2022年11月期第1四半期	24.58	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年11月期第1四半期	165,904	109,198	65.1	1,526.65
2022年11月期	163,384	107,734	65.3	1,508.32

(参考) 自己資本 2023年11月期第1四半期 107,925百万円 2022年11月期 106,630百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	14.00	—	16.00	30.00
2023年11月期	—	—	—	—	—
2023年11月期(予想)	—	14.00	—	16.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年11月期の連結業績予想(2022年12月1日~2023年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	121,000	11.0	11,000	2.7	11,400	△2.7	7,300	0.2	103.26	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 〇社(社名) 、除外 〇社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年11月期1Q	78,478,858株	2022年11月期	78,478,858株
2023年11月期1Q	7,784,358株	2022年11月期	7,784,142株
2023年11月期1Q	70,694,582株	2022年11月期1Q	73,629,931株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料記載の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、上記の予想と実績との間には、今後の様々な要因によって差異が生じる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

(1) 経営成績に関する説明

ニッケグループは、中長期ビジョン「ニッケグループRN(リニューアル・ニッケ)130ビジョン(2017～2026年度)」(以下「RN130ビジョン」という)において、各事業が魅力的な事業を創造し、今後の更なる企業価値向上に向けて、永続的な成長と発展を目指すことを掲げております。

当連結会計年度は、「RN130ビジョン」の具現化に向けて策定した「RN130第2次中期経営計画(2021～2023年度)」の最終年度であるとともに、「RN130ビジョン」に向けての総仕上げとなる「第3次中期経営計画(2024～2026年度)」を策定する年となります。経済活動の回復にはなお時間がかかり、2023年度も不透明な状況が続きますが、一方で、環境を始めとしたサステナビリティ志向の高まりは新たな機会も生んでおり、これらの変化をチャンスと捉えて各種施策を実行しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高25,520百万円(前年同期比0.3%減)、営業利益1,908百万円(前年同期比19.0%減)、経常利益2,031百万円(前年同期比23.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,454百万円(前年同期比19.7%減)となりました。

円安による羊毛原料コストの上昇や、エネルギー費・物流費高騰の影響等で、売上高は前年同期並みも減益となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

①衣料繊維事業

衣料繊維事業の当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高5,975百万円(前年同期比4.3%減)、営業利益356百万円(前年同期比27.5%減)となりました。

円安による羊毛原料コストの上昇やエネルギー費の高騰が、収益を圧迫しております。

(ユニフォーム分野)

学校制服用素材は、縫製工場の生産逼迫に伴い、販売時期がずれ込んだ影響により低調でした。官公庁制服用素材は、警察用制服生地および製品が低調でしたが、消防向けは堅調でした。一般企業制服用素材は、コロナ禍で低迷していた前年同期との比較では、引き合いは増加しているものの、当第1四半期での販売には至らず低調でした。

(テキスタイル分野)

一般衣料用素材は、国内販売はスーツ・フォーマル生地の販売が増加したことにより好調でした。海外販売は、英国向けのスーツ生地の販売が増加し好調でした。

(ヤーン分野)

売糸は、ニット関連の販売が増加したことにより好調でした。

②産業機材事業

産業機材事業の当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高5,422百万円(前年同期比0.2%増)、営業利益58百万円(前年同期比76.4%減)となりました。

(自動車関連分野)

自動車生産が半導体不足や部材調達問題などの影響を受け不安定に推移しており、車両向けの不織布や縫製糸・結束紐などは、低調でした。車載電装品他製造ラインのファクトリーオートメーション設備は、顧客の設備投資抑制の影響を受けて低調だった前年同期並みでした。

(環境関連分野)

フィルター資材などの環境・エネルギー関連資材は、堅調でした。

(その他産業関連分野)

OA向け資材は、顧客の在庫調整の影響を受け低調でした。半導体関連装置や画像検査装置は、部材不足により客先への納品遅れが影響し低調でした。その他工業用資材は、堅調でした。

(生活関連分野)

ラケットスポーツ関連は、顧客の在庫調整の影響を受けて低調だった前年同期並みでした。フィッシング関連は、OEM受託生産が伸び堅調でした。生活関連資材は、顧客の在庫調整の影響を受け、楽器用フェルトの受注が低調でした。

③人とみらい開発事業

人とみらい開発事業の当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高8,277百万円(前年同期比2.3%増)、営業利益1,556百万円(前年同期比3.3%増)となりました。

(商業施設運営分野)

商業施設運営は、2022年10月にリニューアルしたコルトンプラザで来場者が増加したことに加え、コロナ禍の影響が軽減された為堅調でした。自社所有外の商業施設におけるプロパティマネジメントおよびコンサルティング業務は、前年同期並みでした。

(不動産開発分野)

不動産賃貸事業は、新規契約が成約し堅調でした。ソーラー売電事業は、前年同期並みでした。建設関連は、建築資材の高騰により収益悪化が懸念される状況ですが、既に受注していた大口物件が完工したため好調でした。

(ライフサポート分野)

保育関連は、既存施設は安定的に推移していますが、昨年閉鎖した施設の影響で売上は低調でした。介護関連は、コロナ禍の影響が継続しているものの、利用者・入所者数が徐々に回復しており前年同期並みでした。スポーツ関連は、前年同期並みでした。

(通信及び新規サービス分野)

通信関連は、手数料収入が減少し低調でした。新規サービス関連は、コロナ禍の影響で低迷していた児童向けアミューズメント施設の利用者数が回復したことや、持ち帰り商品の需要増加で菓子類販売等が堅調でした。

④生活流通事業

生活流通事業の当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高4,967百万円(前年同期比0.3%減)、営業利益310百万円(前年同期比39.3%減)となりました。

原材料費の高騰による仕入価格の上昇、競争が激化しているEC事業等での広告宣伝費および物流費の上昇が収益を圧迫しております。

(寝装品及び業務用品分野)

寝装品は、EC向け販売が低調でした。業務用品は、災害用備蓄毛布や航空機内膝掛け毛布が復調したことに加え、防疫品の販売も堅調だった為、前年同期並みでした。

(生活雑貨分野)

100円ショップ向け等の雑貨販売は、好調でした。家具類販売は、巣ごもり需要が一巡したこともあり低調でした。EC向け生活家電は、当期よりサンコー株式会社がグループに加わったこともあり好調でした。またフィルム関連は、携帯電話の新規販売台数の鈍化に連動し低調でした。

(ホビー・クラフト分野)

スタンプ販売は、オリジナルスタンプ等が貢献したものの、インクパッドや年賀商材の販売減少により低調でした。スタンプ用インクの販売は、国内販売は堅調でしたが、海外販売が不調でした。また乗馬用品販売は、前年同期並みでした。

(その他)

保険代理店の業績は、前年同期並みでした。コンテナ販売は、大幅な増収となった前年同期との比較では、低調でした。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年1月13日公表の予想数値より変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,500	34,646
受取手形、売掛金及び契約資産	25,032	23,149
有価証券	3,000	3,000
商品及び製品	14,702	18,137
仕掛品	7,037	7,220
原材料及び貯蔵品	2,532	2,657
その他	2,195	2,413
貸倒引当金	△96	△95
流動資産合計	88,904	91,129
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	25,606	25,174
機械装置及び運搬具（純額）	5,457	5,287
土地	14,972	14,972
建設仮勘定	410	728
その他（純額）	733	762
有形固定資産合計	47,180	46,925
無形固定資産		
のれん	376	1,256
その他	722	788
無形固定資産合計	1,098	2,045
投資その他の資産		
投資有価証券	22,067	21,619
長期貸付金	17	15
破産更生債権等	45	45
長期前払費用	350	365
退職給付に係る資産	547	545
繰延税金資産	1,053	1,141
その他	2,192	2,145
貸倒引当金	△74	△73
投資その他の資産合計	26,199	25,804
固定資産合計	74,479	74,775
資産合計	163,384	165,904

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,493	9,851
短期借入金	16,309	19,441
1年内償還予定の社債	60	93
賞与引当金	1,660	780
未払法人税等	1,758	446
その他の引当金	127	95
その他	7,830	7,647
流動負債合計	38,239	38,355
固定負債		
社債	60	137
長期借入金	2,850	2,953
繰延税金負債	3,320	3,968
退職給付に係る負債	2,729	2,694
長期預り敷金保証金	6,453	6,565
資産除去債務	439	440
その他	1,555	1,589
固定負債合計	17,409	18,349
負債合計	55,649	56,705
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,465	6,465
資本剰余金	4,454	4,454
利益剰余金	96,439	96,662
自己株式	△5,935	△5,935
株主資本合計	101,423	101,646
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,483	5,628
繰延ヘッジ損益	55	4
為替換算調整勘定	668	640
退職給付に係る調整累計額	△0	4
その他の包括利益累計額合計	5,206	6,279
非支配株主持分	1,103	1,273
純資産合計	107,734	109,198
負債純資産合計	163,384	165,904

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)
売上高	25,598	25,520
売上原価	17,677	17,979
売上総利益	7,921	7,540
販売費及び一般管理費	5,564	5,632
営業利益	2,356	1,908
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	195	204
為替差益	36	-
持分法による投資利益	5	0
その他	164	78
営業外収益合計	407	289
営業外費用		
支払利息	21	21
為替差損	-	12
デリバティブ損失	-	78
租税公課	8	7
その他	84	45
営業外費用合計	115	166
経常利益	2,648	2,031
特別利益		
投資有価証券売却益	47	22
受取補償金	-	50
特別利益合計	47	72
特別損失		
投資有価証券売却損	11	-
事業構造改善費用	-	25
特別損失合計	11	25
税金等調整前四半期純利益	2,684	2,079
法人税、住民税及び事業税	676	531
法人税等調整額	179	106
法人税等合計	856	638
四半期純利益	1,828	1,440
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	18	△13
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,809	1,454

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)
四半期純利益	1,828	1,440
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	252	1,146
繰延ヘッジ損益	△23	△50
為替換算調整勘定	72	△28
退職給付に係る調整額	29	5
その他の包括利益合計	330	1,074
四半期包括利益	2,159	2,514
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,139	2,526
非支配株主に係る四半期包括利益	19	△12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、重要性が増したため、サンコー(株)を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注3)	調整額 (注1)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計			
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	6,244	5,413	8,094	4,980	24,733	865	—	25,598
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	67	79	178	75	401	0	△401	—
計	6,312	5,492	8,273	5,056	25,134	865	△401	25,598
セグメント利益	492	247	1,505	511	2,757	2	△403	2,356

- (注) 1. セグメント利益の調整額△403百万円には、セグメント間取引消去△3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△399百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注3)	調整額 (注1)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計			
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	5,975	5,422	8,277	4,967	24,642	878	—	25,520
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	423	29	168	11	633	0	△633	—
計	6,398	5,452	8,445	4,979	25,275	878	△633	25,520
セグメント利益	356	58	1,556	310	2,281	11	△384	1,908

- (注) 1. セグメント利益の調整額△384百万円には、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△388百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計		
売上高							
(1)顧客との契約から生じる収益	6,227	5,361	7,312	4,980	23,881	865	24,746
(2)その他の収益(注2)	17	52	782	—	851	—	851
計	6,244	5,413	8,094	4,980	24,733	865	25,598

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。

2. 「その他の収益」はリース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計		
売上高							
(1)顧客との契約から生じる収益	5,955	5,369	7,461	4,967	23,753	878	24,631
(2)その他の収益(注2)	19	53	815	—	889	—	889
計	5,975	5,422	8,277	4,967	24,642	878	25,520

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。

2. 「その他の収益」はリース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。